

中村筆頭代表幹事、続投

県経済同友会 後任選り難航で



中村正氏

県経済同友会は24日、任期満了(6月)に伴う筆頭代表幹事に秋田屋本店(岐阜市加納富士町)の中村正社長(66)を再任する方針を固めた。5月9日の理事会で内定し、6月12日の定時

総会後の理事会で正式決定する。任期は2年間。通常は任期の年の3月末までに次期筆頭代表幹事を内定するが、今回は後任調整が遅れ、年度をまたぐ異例の事態となっていた。

中村氏は2016年6月に筆頭代表幹事に就き、現在1期目。筆頭代表幹事は1期での交代が通例で、2期務めたのは、任期が2年に変更した01年以降、一般社団法人化の移行時期を除き、03年から2期4年務めた日本耐酸塩工業会長(当時社長)の堤俊彦氏のみ。

次期筆頭代表幹事の人事を巡っては、後任選りが2月以降に本格化したため、候補が相次いで辞退。3月の理事会までに後任が決まらず、人選を一任された中村氏が24日までに続投の意思を理事らに伝えた。

中村氏は岐阜新聞社の取材に対し、「国内外の情勢が混乱する中、地域の経済団体として、さらに提言活動に力を入れたい」と決意を語った。

中村氏は関西大商学部卒。1974年秋田屋本店入社、98年から社長。2013年から同友会代表幹事を務める。国政への積極的な提言活動を掲げ、働き方改革や女性の活躍推進に関する提言書を野田聖子総務相らに手渡すなど国に直接働き掛けてきた。